昭和56年度　和歌山県名匠

【製竿師（せいかんし）】

石井義夫（いしいよしお）

（竿銘　げてさく）

【現 住 所】高野口町（現：橋本市）
【生　　年】大正３年

職　　歴

昭和６年、実兄故児島光雄（竿銘　師光（しこう））氏に師事。竹製へら鮒釣り竿（通称　へら竿）作りの技術を習得。

昭和10年、独立し、銘を「げてさく」と称する。

業績の概要

へら竿は真竹、高野竹及び矢野竹、それぞれの竹の特質を生かし、作られるが、その大切な部分である穂先から２番目の竹（学名・スズ竹。高野竹と呼ぶ。）が高野山頂近辺で良質のものが採取できることから、橋本市及び高野口町で、産業として発展した。

氏は、昭和10年創業以来、製作技術の向上、研鑽に努める一方、後進技能者の指導にも積極的に尽力され、現在まで弟子10人、孫弟子19人を育成された。

また、昭和35年には、紀州製竿組合を結成、初代組合長として５年間（２期半）にわたり、組合の基礎作りから、材料の共同購入等、業界の近代化に努めるとともに、試し釣り用のつり池を開設（昭和39年）するなど、製作技術向上のためにも多大の功績を残された。

その後、昭和46年～48年には再度組合長に推され、化学製品のグラス竿やカーボン竿の出現によって不況に陥った竹竿業界の振興に尽力され、昭和50年からは同組合顧問となり現在に至っている。